

つなぐ・つながる生物多様性  
共同研究による生態学研究が捉えた地球生物圏の変化

京都大学生態学研究センター  
シリーズ公開講演会 第6回

# 化ける!まねる!?

## 熱帯のアリと奇妙な仲間たち ～ランビルからの研究報告～



平成27年12月13日 [日曜日] 13:30~16:00

【場所】 大学コンソーシアム京都 キャンパスプラザ京都第1講義室 / 入場無料

### プログラム

- 13:30~13:40 開会の挨拶 中野伸一 (京都大学生態学研究センター・センター長)
- 13:40~14:20 「森の支配者アリーアリ抜きでは語れない熱帯雨林の生態系」市岡孝朗 (京都大学大学院人間・環境学研究科)
- 14:20~15:00 「アリ植物を取り巻く昆虫たちの化学生態学」乾 陽子 (大阪教育大学・教養学科)
- 15:00~15:40 「鏡の国のアリ擬態グモー擬態現象から読み解く熱帯雨林の生物多様性」橋本佳明 (兵庫県立大学 / 兵庫県人と自然の博物館)
- 15:40~16:00 質疑

【主催】 京都大学生態学研究センター

熱帯雨林はアリの森。そういってもいいほど、すさまじい量と種数のアリが、熱帯雨林には存在します。だから、アリを利用してやろうという生き物もいっぱい。今回は、アリとアリを取り巻く生き物たちに魅せられて熱帯雨林に通う研究者が、最新の成果を楽しくご紹介します。  
(上に歩いているのはアリではなく、アリゲモです!)

連絡先: 〒520-2113 滋賀県大津市平野2丁目509-3  
京都大学生態学研究センター 酒井 章子  
Tel: 077-549-8260 Fax: 077-549-8201  
E-Mail: shokosakai@ecology.kyoto-u.ac.jp

### 会場へのアクセス



# 化ける! まねる!?! 熱帯のアリと奇妙な仲間たち～ランビルからの研究報告

## 京都大学生態学研究センターシリーズ公開講演会 第6回

### 講演 1



### 「森の支配者アリー アリ抜きでは語れない熱帯雨林の生態系」

京都大学大学院人間・環境学研究科 市岡 孝朗

熱帯雨林に生息する動物の大部分は希少種です。そうした熱帯雨林において、アリは樹上に生息する節足動物の総個体数の2割を占め、いたる所で闊歩し目立つ存在です。量とともに、他の生物といろいろなつながりを持つことによって、アリは熱帯雨林の生態系のなかで重要な位置を占めています。生きた小動物を襲って食べるほか、動植物の分泌物から死体まで幅広い種類の餌を利用し、さらには、餌を確保するための「なわばり」「共生パートナー」をつくったり、営巣によって環境を改変したりします。本講演では、熱帯雨林の支配者としてのアリが、生態系の維持に果たす多様な役割を紹介します。

### 講演 2



### 「アリ植物を取り巻く昆虫たちの化学生態学」

大阪教育大学・教養学科 乾 陽子

熱帯雨林には、アリを体内に住まわせて守ってもらう「アリ植物」が分布しています。共生するアリは攻撃的で、植物の外敵である植食者やつる植物を排除します。しかし、そんなアリ植物を好んで餌や住処にし、アリと上手く同棲する「好蟻性昆虫」がいます。一般にアリは、相手が巣仲間かどうかを化学的に認知しているので、好蟻性昆虫はアリと良く似た化学物質を身にまとうことで攻撃をまぬがれています。ところが、アリ植物を利用する好蟻性昆虫は常識を覆す方法でアリを化学的に騙していることが分かってきました。アリ植物内という限定的な生息場所を覗いて見えてきた、多様な昆虫の化学戦略をお話します。

### 講演 3



### 「鏡の国のアリ擬態グモ

### ー 擬態現象から読み解く熱帯雨林の生物多様性」

兵庫県立大学／兵庫県立人と自然の博物館 橋本 佳明

アリ類の多様性がきわめて高い熱帯林では、アリに擬態する生物の多様性も高いことが知られています。ひょっとしたら、擬態は防衛戦略として機能しているだけでなく、熱帯の豊かな生物多様性を創出する機構のひとつとして働いているのかもしれませんが。そんなひらめきから、ボルネオ島のランビルヒルズ国立公園をはじめ、東南アジア熱帯林で、同所に出現するアリ類とアリに擬態するクモ類の多様性を10年近く調査してきました。その結果、アリ類の多様性がアリ擬態クモ類の多様性を創出する鑄型となり、さらに、クモ類の多種共存機構として機能していることが分かってきました。講演では、アリ類の多様性を映し出す鏡の国のクモ達の謎をひも解いていきます。